

## 「初夏の蝶」

梅雨の晴れ間、少しゆっくりお散歩をしました。生きものたちは今が旬、里山には命の輝きが満ち満ちています。ちょっと足を踏み出すとバッタが飛び立ち、すぐ横の長い葉には、ナナフシがゆらゆらゆれています。

暑くなるにつれて、土手の草丈も高くなってきています。目を凝らすと、そんな草の間を飛び回っている小さなチョウ。



シジミチョウの仲間です。いつも見ているチョウと同じようなのに、何となく違和感があって、よく見ると模様が違っていたりします。それに羽の後ろに突起があって、それを前後に動かしているのです、まるで触角を動かすように… 今の時期だけ出てくるチョウ、ゼフィルスです！ ゼフィルス…ギリシャ神話の西風の神からつけられた名前を持つ一群のチョウに、ずっと憧れを持ち続けていました。

太い二本の筋を持つ白いチョウ、これはミズイロオナガシジミ、モダンな模様ですね。オレンジ色と黒

の縞模様の蝶もありました。ウラナミアカシジミ、黒目がちのかわいい女の子といった感じです。しばらくじっとしているので、そろそろ飛び立って内側の羽の色を見せてねと、指先でそとついたら、なんと



私の指に移ってきました！色っぽい流し目、ググッときますね。羽の後ろの突起やそのそばの少し派手な模様は、鳥たちがそこを頭と

間違えてつついている間に逃げようという作戦でしょうか。抵抗するすべのない小さなチョウたちの、せめてもの防衛なのでしょう。

梅雨時から9月頃までの短い期間しか現れないといわれるゼフィルス、出会えただけで、なんだかとてもハッピーな気持ちになりました。また会いに来てね！

(小川)